スポーツサイエンスの“実践”と“探求”

学報

日體大



疾走の構造

[特集]

「走る」を科学する

巻頭インタビュー：体育学部体育学科 小林史明准教授&小林美月選手

85号
2026. AUTUMN

Contents

学報 日體大 2026. AUTUMN No.85

特集 | FEATURE

「走る」を科学する

P.02 [巻頭アスリートインタビュー]

体現者 – Nittai PRIDE –

体育学部 体育学科

小林 史明准教授

小林 美月選手

P.07 クラブ紹介 – 未来の体現者たち –

陸上競技部

P.09 [特集 | Sports x Biomechanics]

「走る」を科学する

#バイオメカニクス研究編

「足の速さ」のメカニズムを解き明かす

#バイオメカニクス実践編

スマホで動作分析!? 私たちの日常で使えるスポーツ科学

体育学部 体育学科

大塚 光雄 准教授

P.13 スポーツ科学の最先端レポート

研究最前線

from 国際交流センター長

体育学部 体育学科

佐良土 茂樹 准教授

P.15 [PICK UP!]

気になるゼミのぞいてみた

「運動が苦手な子ども」と向き合う

鈴木康介ゼミ

児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科

鈴木 康介 准教授

P.19 大学の現場から

TOPIC 1 大学院身体総合学術研究科 改組・新設を徹底解説

TOPIC 2 キャンプ実習・海浜実習紹介

P.23 INFORMATION Corner

Info.1 スピードスケート史上初の偉業 高木美帆氏国民栄誉賞受賞

Info.2 アジア最大のスポーツの祭典 第20回アジア競技大会結果報告

スポーツサイエンスの“実践”と“探求”

日體大

体現者 – Nittai PRIDE –



Fly higher

Kobayashi Fumiaki

体育学部 体育学科 准教授

小林 史明

平成9年体育学部卒。体育学部体育学科准教授。元棒高跳び日本記録保持者（5メートル71）。現在は日体大陸上競技部監督として、娘の美月選手をはじめとする後進の育成にあたる。

Kobayashi Mitsuki

体育学部 所属

小林 美月

小学6年生から棒高跳を始める。高校時代はU-20日本選手権やインターハイ、日体大進学後は関東インカレ・日本インカレで優勝を重ね、令和7年の第109回日本選手権では女子棒高跳の日本学生記録を4メートル31で更新した。

令和7年、第109回日本選手権の棒高跳で4メートル31の日本学生新記録を樹立し、見事優勝を手にした小林美月選手。「学生記録はあくまでオリンピックへの通過点」と語る彼女の父親は、元日本記録保持者にして現日体大陸上競技部監督の小林史明准教授です。小学6年生の時に棒高跳を始めて以来、史明准教授の実践に裏打ちされた指導を受け、女子棒高跳界期待のエースへと成長を遂げました。父と娘、監督と選手――。異なる2つの関係性を持つお二人に、これまでの歩みや普段の練習の様子、競技に懸ける想いを伺いました。



「パパは、私よりも私のことをわかっているんです。パパがいなかったら、跳べないかもしれない。」小林美月選手は、屈託のない笑顔でそう語った。彼女にとって小林史明准教授は、かけがえのない父であり、数々の困難を二人三脚で乗り越えてきた競技指導者でもある。昨年、美月選手が日本選手権で日本学生記録を更新した際には、抱き合って喜ぶ様子が報じられた。日体大での歩み、競技人生で直面した困難、そして目標とするオリンピックへの道のり――。時折冗談を交わしながらインタビューに応じる二人の姿には、お互いへの揺るぎない信頼と棒高跳にかける真摯な情熱が感じられた。

深い信頼で結ばれた父と娘のタッグ



親子二代で立つ日体大のグラウンド

美月選手：日体大は、幼少期の私にとって身近でありつつ、憧れの場所でした。物心がつく前から何度もグラウンドへ遊びに来ていましたが、実際に「入学したい」と心に決めたのは小学校高学年の時。当時グラウンドで棒高跳を練習していた日体大生のひたむきな姿を見て、強く憧れたのです。

史明准教授：美月が小学6年生の時に棒高跳びを始めてからは、意識して段階的に指導を行ってきました。中学まで練習は週1回程度でしたが、高校に入学してからは頻度も増え、本格的に取り組み始めました。回数は増えましたが、内容はあくまでも基礎の徹底を重視。いきなり高度な技術を取り入れるのではなく、助走や踏み切りなど、基本の動作を繰り返すよう指導しました。

美月選手：当時は「基本的なことばかりでつまらない」と感じたこともありましたが、今となってはそのおかげで確実な力が身に付いたと感じます。日体大に入学してからは、さらにレベルの高い仲間たちに囲まれ、日々よい刺激を受けながら切磋琢磨しています。

史明准教授：日体大は、競技者にとっても指導者にとっても最高の環境だと思います。陸上競技部は競技経験のない学生も受け入れているのですが、そういった部員が入部後にぐんと力を伸ばし、全国大会で入賞するようになることもあるくらいです。知識も実践も身に付けられる、可能性にあふれた場所なのだと感じます。そんな母校で指導できるとは、恵まれていますね。もちろん、娘を直接教えられるのも稀なことだと思っています。しかし、良い意味で彼女を特別扱いはしていません。ほかの学生と一緒に成長してほしいと願い、指導しています。

美月選手：父は、競技面においては私のことを私よりもよく理解していると思います。例えば、何か練習でうまくいかないことがあった際は、「こうなっているから、ここが違うんじゃない?」と、私が気づいていない点を指摘してくれるのです。私はどちらかと言うと感覚派なので、父の論理的なアドバイスは心から頼りにしています。

史明准教授：練習中むやみに口を出すわけではなく、何か聞かれたら答えるくらいです。現役時代の自身の経験に加え、大学院での勉強や海外の競技者から学んだ理論など、さまざまなことが役に立っています。

美月選手：的確な助言に「ああ、確かに!」と納得させられることばかりです。ただ、特にそう決めたわけではないのですが、父と陸上の話をするのはグラウンドでだけ。家に帰ると本当に普通の親子ですね。

怪我を乗り越え掴んだ学生新記録

美月選手：去年の3月にボックス（ポー



もっと高く、もっと先へ。世界レベルを目指して挑戦を続ける



ルを突き立てる箇所）へ落下し、肋骨を骨折してしまいました。ちょうど、大学生の世界大会であるワールドユニバーシティゲームズの選考会1か月前のことです。出場したい大会だったので、当初は非常に落ち込んでいましたが、家族や仲間が寄り添い、温かく励ましてくれたことで、やがて気持ちを切り替えることができました。結局、大会に出場することはかなわなかったのですが、周囲で支えてくれる人たちのありがたさを改めて実感する、よい機会になりました。

史明准教授：これまで決してとんとん拍子ではなく、こうした怪我やうまくいかないことがいくつもありました。しかし、美月はそんな壁を乗り越える能力に長けている。元来のポジティブな性格に加え、「もっと先へ」という意識がメンタルの強さに繋がっているのでしょう。障壁をうまく乗り越え、ここだ、という場面で力を発揮できることが彼女の一番の強みだと感じます。



美月選手：そうですね。骨折した後も、特に跳ぶことに対する恐怖心はありませんでした。むしろ、ある程度回復して「やっと練習ができる!」という喜びの方が大きかったくらいです。

骨折からおよそ4か月後に、日本選手権がありました。結果は優勝。以前から目標にしていた日本学生記録を4メートル31で更新することができました。大きな舞台で力を存分に発揮できて喜びを感じた反面、これは今後世界で戦っていくための通過点にすぎないと気を引き締める出来事でもありました。

史明准教授：私も現役時代は何度も日本選手権に出場しましたから、その頂点に立つことがどれだけ大変かは身に染みてわかっています。美月が優勝したときは、これまでの努力を間近で見ていたこともあり、とても嬉しかったです。ただ、以前から彼女にあの高さを跳ぶ力がついていることはわかっていたため驚きはなく、「やっと跳べたか」という気持ちでもありました。

美月選手：日本選手権では「マックスポール」という、これまで使用してきたものよりも硬いポールを使用したことが功を奏したのだと思います。以前何



回か試した際はうまく使いこなせなかったのですが、本番ではスムーズに跳ぶことができ、自分でも驚きました。

史明准教授：使用するポールが違うと、感覚も随分変わるものですからね。当日、これまでの失敗を踏まえてバーの位置を調整できたことも、うまく噛み合ったのだと思います。



オリンピック出場を目指し さらなる高みへ

美月選手：日体大で過ごすうちに、競技者としてだけではなく、人間としても成長できたように感じます。今年度は陸上競技部の主将にも立候補しました。もともと、周りを積極的に引っ張っていくようなタイプではないのですが、お世話になった日体大に少しでも恩返しがしたいと思うようになったのです。

今後は、夢であるオリンピック出場を見据えて、まずは日本記録の更新を目指します。具体的な目標としては、助走の安定と筋力の強化に取り組みたいです。

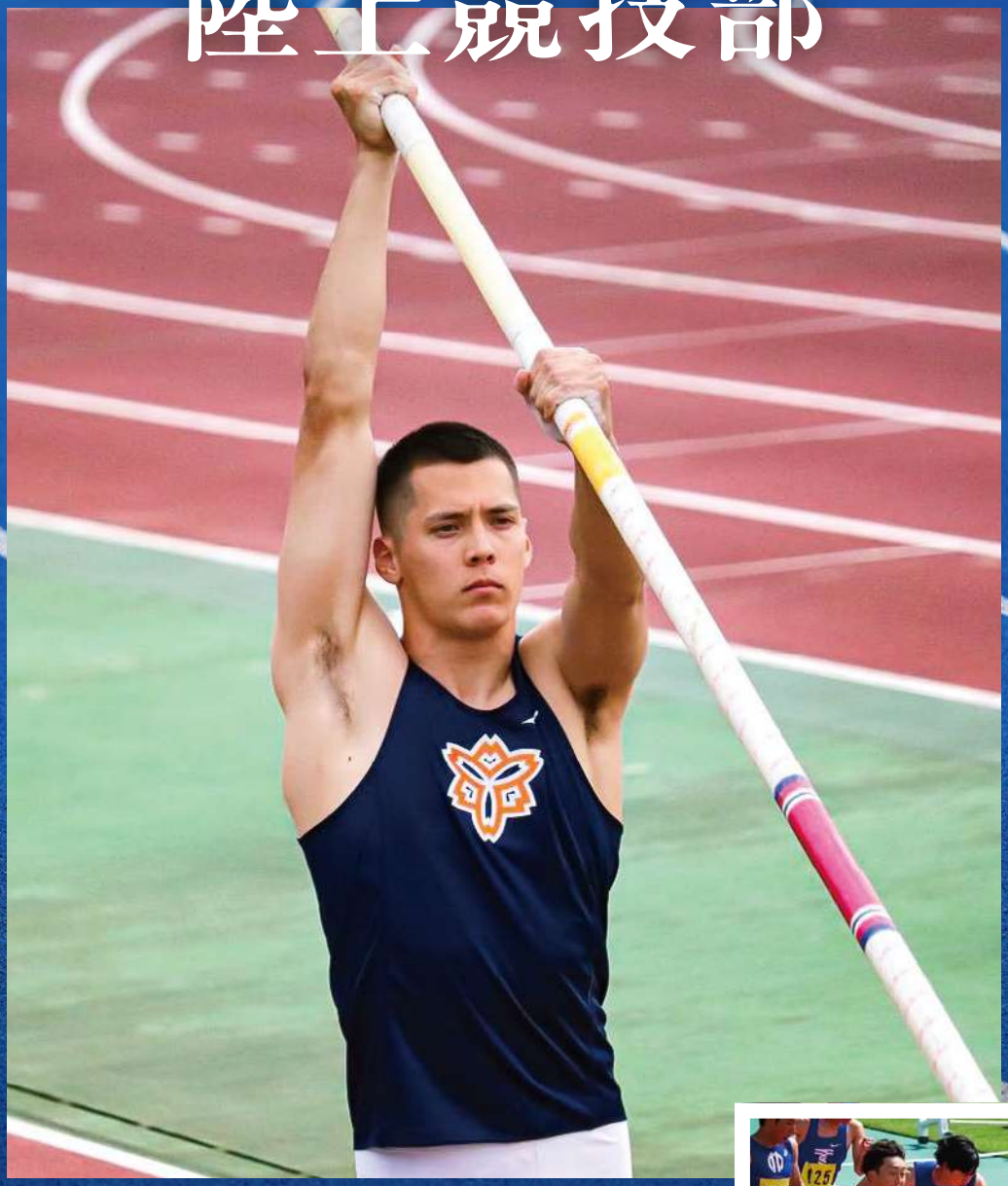
史明准教授：トップスピードを上げるために助走の歩数を14歩から16歩へ変えたばかりなので、慣れるには少し時間が必要でしょう。ただ、これまでに骨折や腰椎分離で休むことを余儀なくされた期間もあったので、まずは今後怪我をせず、きちんと体をつくっていくことが大切です。そうすれば、自ずと結果はついてくると思います。

美月選手：試合での応援の声や、SNSのメッセージなども大きな励みになっています。感謝の気持ちでいっぱいです。応援してくださる方々の期待に応えられるよう、これからも頑張ります。

クラブ紹介
- 未来の体現者たち -

陸上競技部

TRACK AND FIELD CLUB





門戸は広く 志は高く

日本体育大学陸上競技部は1925年に創設され、数々のトップアスリートを輩出してきました。現在は9つのブロックに分かれて活動しており、所属する部員は500人超。大学の体育会として最大級の部員数を誇っています。

日体大陸上競技部の大きな特徴は、駅伝ブロック以外が原則として入部基準を設けていない点です。強豪校であれば競技経験や実績に基づいて選考が行われることが多い中、ここでは入部を拒まれることがありません。初心者や、高校時代に目立った実績を残していなかった部員が入部してから躍進し、大学で初めて全国大会に入賞するようなケースも多々見られます。
個人競技も多い陸上競技部ですが、大切にしているのは一部の部員を伸ばすことではなく「全員で強くなること」。長い歴史の中で、年次やブロックの垣根を超えて、互いに高め合う伝統が形づくられています。











TRACK AND FIELD CLUB

1 短距離ブロック

400mまでの短距離ブロック。現在は男女合わせて100名以上の部員が在籍しており、大学から陸上競技を始めた部員も少なくありません。

2 中距離ブロック

中距離ブロックでは、800mと1,500mを中心に取り組む部員が活動しています。性別や学年を問わず、互いに切磋琢磨しながら成長できる環境です。

3 男子駅伝ブロック

学生が主体となってチームづくりを行っているブロックです。令和8年度は「継往開来」をチームスローガンとして掲げ、箱根駅伝での上位入賞などを目標に練習を重ねています。

4 女子駅伝ブロック

駅伝は、個々の走力だけでは成り立ちません。女子駅伝ブロックは「チームで勝つ」ことを強く意識し、一丸となって主要な大会での上位入賞を目指しています。

5 混成ブロック

混成競技は、「走る、跳ぶ、投げる」すべてを扱う種目です。男子は十種、女子は七種の種目で合計得点を競います。混成ブロックの部員は「全員の自己ベスト更新」を目標に、日々練習に励んでいます。

6 跳躍ブロック

跳躍ブロックの部員は棒高跳び、走り高跳び、走り幅跳び、三段跳びの4つの種目で活動しています。日本学生陸上競技対校選手権大会や関東学生陸上競技対校選手権大会での上位入賞が目標です。

7 投擲（とうてき）ブロック

投擲ブロックの部員は、砲丸投げ、円盤投げ、ハンマー投げ、やり投げの4つの種目に分かれて活動しています。試合だけでなく練習の段階から「勝ちにこだわる」ことを大切にしています。

8 パラアスリートブロック

義足や低身長など、さまざまな障害のある選手が同じ障害のクラスごとに分かれ競い合うパラスポーツ。パラアスリートブロックでは、一人ひとりがパラリンピックや世界選手権への出場を目標にして活動しています。

9 トレーナーブロック

他ブロックの活躍を支えるトレーナーの学生が在籍しています。主な活動内容は選手のコンディショニングや傷害発生時の応急処置、救護活動などです。

「走る」を科学する

#バイオメカニクス研究編

「足の速さ」のメカニズムを解き明かす

人体の運動動作を力学的に分析し、パフォーマンス向上とケガ予防の両立を目指す「スポーツバイオメカニクス」。誰もが日常的に行う「走る」という動作の裏には、肉眼では捉えきれない緻密なメカニズムが隠されています。動作解析の最前線から見えてきた「速さ」の実態について、大塚光雄准教授にお話を伺いました。





モーションキャプチャ分析の様子

「スポーツ×生体×力学」の力で 競技力向上&ケガ予防 を目指す

スポーツバイオメカニクスとは、人体のスポーツ動作を力学的に分析し、競技力向上と傷害予防の両立を目指す学問です。走る·跳ぶ·投げるといった基本動作において、身体がどう動き（生体分析）、そこにどんな力が生じているのか（力学分析）を解明します。「動きと力の因果関係をスポーツ動作に当てはめ、競技力の向上やケガの予防につなげることが研究のゴールです」と大塚准教授。精密な実験室データとスポーツ現場を結びつけ、アスリートのパフォーマンス向上を根底から支えています。

「ももを高く上げる と速く走れる」はホント?

ハイスピードカメラによる動作分析は、指導現場の常識に客観的な光を当てます。たとえば長年「ももを高く上げる」「かかとをお尻につける」と速く走れると信じられてきましたが、一流選手のデータを分析しても走速度と膝の上がる角度に相関は見られません。肉眼では捉えきれない緻密な動きを可視化することで、従来の誤解を解き、本当に必要な技術を見極められるのがバイオメカニクスの醍醐味です。体育の授業からアスリートの指導まで、根拠に基づいた真の「速さ」のメカニズムを解明していきます。



PROFILE

体育学部 体育学科
大塚 光雄 准教授

専門はスポーツバイオメカニクス。平成23年大阪体育大学大学院博士後期課程修了。立命館大学助教などを経て現職。スポーツ動作の力学的分析をはじめ、スマートウォッチやアプリを用いた動作分析ツールの開発・普及に取り組む。

足だけじゃない!
「骨盤のブレ」と「体の軸」がスピードを生む

走動作というと下半身の前後の動きに注目が集まりがちですが、近年は骨盤周りや体幹の動かし方が重視されています。疾走時には側屈・回旋方向の大きな力（トルク）が発生するため、体の軸をいかに安定させるかが重要です。特に女性は骨盤の幅が広いため回転力が大きくなりやすく、着地時に腰が上がらないよう耐える筋肉の働きが求められます。全身の中心である体幹部を科学的に評価し、効率的な身体の使い方を解明する研究が現在進められています。足の力だけに頼らない、全身の連動こそがスピードを生み出します。

足の速さに関わる
「アキレス腱の長さ」と「天性のバネ」

バイオメカニクスでは、MRIを用いて筋肉や腱の形態を観察する研究も行われています。スプリンターの全力疾走を分析すると、アキレス腱が長い選手ほど高い走速度を発揮しやすい傾向が明らかになってきました。走る際の蹴り出しで生じる「バネ」の硬さは、生まれ持った腱の長さや構造に大きく影響されているのです。こうした身体の特徴を客観的に把握できれば、個々の持つ潜在能力に合わせたトレーニング方針を導き出すことが可能になります。天性の資質を理解した上で最適なアプローチを選択することが上達への近道です。

スランプ脱出の秘訣!
「一歩の長さ」と「足の回転数」をチェック

走速度は「ピッチ（足の回転数）×ストライド（一歩の長さ）」で決まります。不調に悩む選手のデータを調べると、ストライドが数センチ縮んでいたというケースが少なくありません。感覚だけに頼らず数値を把握することで、「ピッチを維持しつつストライドを伸ばす」といった明確な課題が見えてきます。科学的データは選手とコーチなどがより高い頂点を目指すための強固な土台。客観的な指標をヒントとして現場に還元し、選手の自己修正能力を引き出すサポートを行っています。

#バイオメカニクス実践編

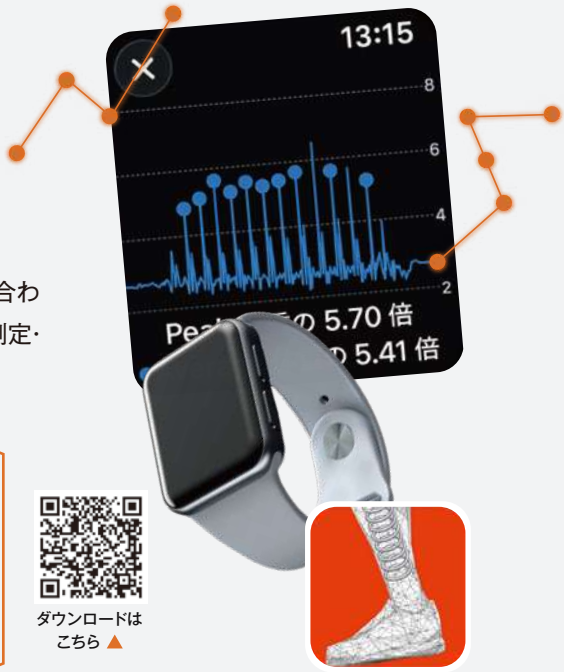
スマホで動作分析!?

私たちの日常で使えるスポーツ科学

動作解析の舞台は実験室の高精度な測定環境から、誰もが手軽に使えるフィールドへ。テクノロジーの進化により、スマートフォンやスマートウォッチを活用した動作解析が身近になりつつあります。データの大衆化が進む現代において、ツールの活用法や数密性の検証、そしてこれからの指導者の役割を探ります。

動作と力を可視化する2つのアプリケーション

1 スマートウォッチを用いたジャンプ力・足裏反力推定アプリ



動作・機能について

スマートウォッチに内蔵された加速度センサーと本人の体重データを組み合わせることで、ジャンプ時に足裏へかかる力（地面反力）や脚力を簡易的に測定・推定するアプリケーションです。

使い方

1. アプリを起動し、体重を入力して測定スタートボタンを押す
2. スマートウォッチを装着したまま、その場で連続ジャンプや垂直跳びを行う
3. 着地した時の、足にかかった力のピークが自動計算され、画面にわかりやすく表示されます。計測できた数値は、跳躍力の向上やフォームの改善に役立つデータになります

ダウンロードはこちら ▲

2 AIマーカーレス走動作分析アプリ

開発中!!



アプリの完成例はこちら ▲

動作・機能について

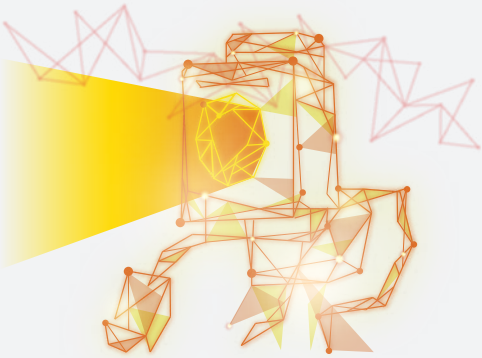
従来は撮影映像の1フレームごとに全身のマーカーを手作業で追うための、膨大な作業時間と専門ソフトが必要でした。しかし、このアプリが完成すれば、必要なのはアプリとわずか数十秒のみに。スマホ映像から、高度な走動作分析を行えるようになります。

使い方 ※現段階の内容です。

1. 走っている姿をスマホのカメラで撮影します
2. アプリを起動し、該当動画を選択すると、AIが人物を自動検出。身長や計測項目（速度・角度・軌跡など）を選ぶと、骨格や関節の動きが画面に即座に表示されます
3. 可視化された数値やスティックピクチャー（骨格モデル）をもとに、フォームのクセや改善点を確認します

AIが身近になったからこそ知っておきたいこと

分析技術の進化の現在地



かつては高価な機器と1コマずつの手作業補正が必要だった動作分析も、テクノロジーの著しい進歩によりAIマーカーレス解析へと劇的な進化を遂げました。高度な専門技術が一部の研究現場から一般の人々へと普及していく流れは、自動車や航空機の歴史と同様に非常に自然な技術革新のプロセスと言えます。手軽に誰もが自分の動作や力発揮を計測できるようになり、これまで遠かったスポーツ現場とスポーツ科学の距離は飛躍的に縮まってきました。技術の進化で動作分析アプリが身近になり、誰もがその恩恵を簡単に受けられる時代になっています。



「数値の正しさ」を守るために

手軽で便利なアプリが現場に普及する一方で、画面上に表示される「数値の正しさ」を慎重に検証することが極めて重要です。奥行きや角度など、カメラによる見え方のズレを考慮していない不正確なアプリの計算結果を過信してしまうと、誤ったフィードバックによって選手のパフォーマンス低下や怪我を招く危険性があります。だからこそ研究者の立場で、実験室の高精度なモーションキャプチャデータと簡易アプリの値を丁寧に比較・検証し、データが本当に正しいかどうかを評価することで、指導現場や授業で誰もが安心して正しく使える環境づくりを行っています。

AI時代に求められる人間の指導者像

AIを用いたマーカーレス解析や先進テクノロジーが客観的な数値や動作のズレを瞬時に可視化する時代だからこそ、人間の指導者が持つ真の役割と価値が問われます。データやツールは客観的な事実を示してくれますが、アスリートや子どもの心を動かし、主観的な感覚を磨いて実際の行動を変えるのは指導者自身の言葉や「熱意」「人間性」にほかなりません。AIによる論理的なデータと、人間ならではの感情に寄り添う温かな指導。この両者を上手く融合させ、選手の自己肯定感や向上心を最大限に引き出すことこそが、これからの時代に求められる指導者像です。



「走る」以外にも! 日常動作・健康づくりへの応用

バイオメカニクスの考え方は、スポーツだけでなく日常生活や健康維持の場面でも大いに役立ちます。例えば重い荷物の持ち上げや介護の場面では、テコ（支点・力点・作用点）の原理を活用し、対象物を自分の身体にできる限り近づけることで腰にかかる負担を軽減できます。また、スクワットなどの筋トレでも正しい姿勢と関節の可動範囲を意識することで安全かつ効果的なトレーニングが可能です。

技術革新を通じて、スポーツバイオメカニクスは、かつてないほど身近になりました。パフォーマンスの向上に、日々の健康づくりに、最先端の技術が活かされています。

スポーツ科学の最先端レポート

研究最前線

from

国際交流センター長
体育学部体育学科准教授
佐良土 茂樹



哲学とコーチング学。異なる2つの学問を行き来し、「善いコーチとは何か」を考える。

Profile

体育学部体育学科准教授。国際交流センター長。上智大学大学院哲学研究科博士後期課程満期退学。博士（哲学）。古代ギリシャ哲学およびコーチング学を専門とし、日本バスケットボール協会では指導者養成委員として、日本スポーツ協会ではコーチトレーナーとしても活動中。

コーチングを哲学する

私は古代ギリシャ哲学とコーチング学という、一見すると全く異なる2つの学問分野を専門としています。もともと大学院ではアリストテレス哲学の研究を行っていましたが、その傍ら、バスケットボールチームのコーチを請け負う機会がありました。その際に気が付いたのが、コーチングに関する本の多くは選手の能力を引き出す技術や戦術について述べられたものばかりで、コーチ自身が持つべきマインドセットに焦点を当てたものは見当たらないということ。そこで頼ったのが、私が尊敬するアメリカのバスケットボールの名将・コーチKことマイク・シャシェフスキーの著作でした。翻訳しながら読み解いたところ、彼の理念とアリストテレスの思想に共通点を見出せるように感じたのです。古代哲学者と現代の名コーチの姿を照らし合わせることで、理想のコーチ像を描き出せるのではないか——そう考え、コーチング哲学の研究に着手しました。そもそも哲学では「善く生きるとはどういうことか」という大きな問いを扱います。この視点をコーチングに当てはめ、「コーチングを通じて善く生きるには」という問いに向き合っています。

“良いコーチ”と“善いコーチ”

アメリカにおける名言に、次のような言葉があります。「グッドコーチは試合を変えることができる。グレートコーチは人生を変えることができる」。選手の能力を引き出すスキルを持ったコーチが優れていることに間違いありません。しかし、この言葉を参照すれば、そうしたコーチはあくまで“グッドコーチ（＝良いコーチ）”の領域です。一方で、選手やコーチ自身の人生をよりよい方向に導くことができる存在こそが、“グレートコーチ（＝善いコーチ）”と言われるのです。

アリストテレスの幸福論から“善いコーチ”を考える

この“善いコーチ”像について、アリ

ストテレスの倫理学における“幸福”の概念から紐解いてみます。古代ギリシャ語における幸福（エウダイモニア）は、現代で言う「ウェルビーイング」に近い意味合いを持ちます。彼は人間にとっての幸福を「自分自身のよさ（＝“卓越性”）を最大限に発揮して生きること」と説きました。

スポーツ界において、選手にとっての幸福は「勝利」だと考える人もいるでしょう。しかし、勝利は試合における目標であっても、人生の究極的な目的にはなり得ません。したがって、相手の人生をよりよく導く“善いコーチ”を目指すのであれば、目先の目標（勝利）に囚われることなく、「選手にとって本当の幸福」を見極める思考が必要になります。こうした物事を局所的ではなく大きな視点で考え行動できる能力を、アリストテレスは「賢慮」と表現しました。

さらに、コーチが選手の“卓越性”を引き出すには、適切な「知識・スキル」に加え、「人柄」の資質も重要です。彼は人間が持つさまざまな特性を「人柄」として挙げていますが、たとえばコーチに求められる人柄には、自分自身を律す「節制」や相手への「思いやり」「誠実さ」、勝負どころで決断を下す「勇気」などが該当します。

「賢慮」「知識・スキル」「人柄」――これらを兼ね備えた存在こそが、アリストテレスの倫理学に照らした“善いコーチ”の在り方といえます。また、そのようにプレイヤーの“卓越性”を引き出す過程において、コーチ自身も知識や人柄など自らの“卓越性”を発揮できれば、結果的にそれがコーチ自身の幸福にもつながってくるのです。

哲学はよく理想論を語る学問だと言われがちですが、ここで述べたような思想を現実で遂行し、「結果を出すこと」と「選手を本当の幸福に導くこと」を両立した人物として、コーチKが実在します。“善いコーチ”は決して理想的な偶像ではなく、私たちが現実において具体的に体現できる姿だと考えています。

スポーツの実践の合間に「メタ的な視点」を取り入れる

最近は“善いコーチ”の探求だけでなく、「そもそもコーチング学とはどのような学問か」というメタ的な視点での研究も行っています。前述のとおり、従来のコーチング学は選手のスキル向上のための研究が中心でしたが、コーチ自身の振る舞いや人間観、コーチの育成論にも思考を広げ、「コーチング学」という学問そのものの体系を確立できればと考えています。アリストテレスが「そもそも学問はどういうものであるべきか」を作った万学の祖なので、彼を専門とする私自身もそういった影響を受けているのかもしれません。

哲学の醍醐味は、「学問とは」「幸せとは」など、普段当たり前のように使う言葉や概念を改めて深く考える点にあります。目の前の瞬間にフォーカスされるスポーツとは対照的ですが、だからこそ日体大の皆さんには、一度立ち止まって「自分は何のためにスポーツをするのか」と自問する時間を大事にしてほしいと感じます。コーチングに当てはめて考えても、自らの在り方を捉え直す、相手の発言を理解する、自分の考えを正確に言語化する……といった過程で考える時間を持つことは非常に重要です。

哲学の世界では、一つの文章と何時間も向き合って初めて見えてくるものがあります。一見無駄に思えるようなことを考えたり、多様な人と対話したりする時間の中で新しいひらめきが生まれることもあるでしょう。実践と振り返りを往復し、実践から少し離れた視点から見えてくるものを大切にしてもらいたいと思います。

My Research Picks



これまでの研究成果

さまざまな翻訳にはじまり、その成果を基に自身の著作を刊行しました。古典の文献とコーチング論を丹念に読み進めることで、現代に活きる知恵を紡ぎ出します。



大学院生のコーチング現場観察

大学院コーチング実践学プログラムでは在籍している院生の指導現場の観察および振り返りなどを行い、コーチング能力の向上を支援しています。



古代ギリシアの理論と実践の場

アリストテレスの学園リュケイオンの遺跡にて。古代ギリシアのアテナイでは神域内に身体鍛錬の場（体育場）と精神修練の場（哲学学校）が併設されていました。

気になるゼミのぞいてみた

PICK UP!!!

「運動が苦手な子ども」と向き合う 鈴木康介ゼミ



鈴木康介ゼミとは?

子どもたちが運動を楽しく学べる指導法や体育の教材づくりを追求するゼミです。ゼミ名の「PEAK」には「Physical Education for All Kids（すべての子どものための体育授業）」という思いを込めました。

ゼミのモットーは「運動が苦手な子どもを何とかする！」。体育に苦手意識のある子どもたちの目線や思いに徹底的に寄り添うことが、良い指導の第一歩だと考えています。実践を通して、全ての子どもが笑顔になれる運動・スポーツの可能性を仲間と一緒に探究しています。



准教授

先生に突撃インタビュー!

児童スポーツ教育学部
児童スポーツ教育学科 准教授
鈴木康介

Profile

早稲田大学大学院博士課程修了（博士：スポーツ科学）。早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターなどを経て、現在、日本体育大学准教授。

研究内容について

体育科教育学を専門とし、走運動をはじめとする子どもの運動全般の教材・授業づくりを対象としています。得意、不得意に関わらずどんな子どもでも意欲的に運動に取り組めるよう、体育の授業内外における効果的な教材づくりや仕掛け・仕組みの実装について研究中です。

Q ズバリ先生が思うゼミの魅力とは?

A1 子どもと本気で関わる「実践的な学び」!

自治体と連携したイベント「子ども運動チャレンジ教室」への参加など、実践的な体験が豊富！実際の現場でさまざまな子どもたちとマンツーマンで向き合い、体を動かす喜びをダイレクトに届ける経験を積むことができます！

A2 「思わず体が動き出す」指導のコツが学べる!

言葉がけの工夫や遊びのアイデアで、子どもの「できた！」を引き出す研究を徹底追求！教科書のない体育だからこそ、苦手な子も得意な子も夢中になれる指導法や仕掛けを生み出す発想法が身に付きます。

A3 先生と対等に高め合える「同僚」のような関係性!

先生と学生の距離が近く、互いを「同僚」として認め合うアットホームな雰囲気が魅力！学生を一人のプロ指導者として尊重しているからこそ、役割の垣根を超えて対等に意見を交わし、共に高め合える信頼関係が築かれています。

ここでしかできない「3つの学びの柱」

1 「からだ」で知る



「いつでも、どこでも、何もなくても遊べるように！」と学生に伝え、周りに子どもが集まった際に良質な運動遊び※を提供できるよう自ら動く姿勢と実践的に学ぶ大切さを指導しています。まずは学生自身が動いて楽しむことを大事にさせています。

※運動遊び…子どもが楽しみながら自発的に体を動かし、基礎的な体力や運動能力の成長を促す活動。

2 「ことば」で紐解く



←肩に乗せたファイルを落とさず一周する運動遊び

指導者のことばと子どもの捉え方のズレを紐解きます。「足をあげる」という指示でも、足先か全体か、言葉の認識次第で動作が変わります。子ども目線のことば選びや感覚的な伝え方を追求し、より伝わる指導を深めます。

3 「こども」に届ける



自分の「スポーツが好き」という気持ちをそのまま押し付けず、嫌いな理由や苦手な子の視点に立つことが大切です。なぜ好きなのか、なぜ嫌いなのかを考え寄り添うことで、子どもに運動の楽しさを届けます。

数字で見る！活動のリアル



REAL

子ども目線に立った指導やアイデア豊富な運動遊びを大切にする鈴木康介ゼミ。その活発な取り組みの裏側をデータで可視化しました。数字から見えてくる、ゼミの本気とリアルな素顔に迫ります！

年間で関わる子どもの数

約300人以上

さまざまなイベントで
たくさんの子どもたちと関わります。

運動遊びの数

50種類

50音何を言われても
遊びのアイデアを出すことができます！



学びの割合

座学3割　実践7割

常に遊び心を忘れず
実践的に学ぶことを大切にしています。

ゼミで出会う笑顔の数

∞回

鈴木康介ゼミの学生はよく笑います。
そして子どもの笑顔にもたくさん出会います。

気になるゼミのぞいてみた

気になる学生の素顔とは？

学生4名にインタビュー！

CASE_1

子ども好きの熱意でひとつになる、メリハリと笑顔があふれるゼミ



児童スポーツ教育学部
児童スポーツ教育学科
幼児教育保育コース
太田 真幸 さん

ゼミを選んだ理由

1年次に受けた陸上の授業で、運動が苦手な子どもでも楽しめる指導法があると知り、興味を持ちました。さらに、鈴木康介ゼミでは「運動が苦手な子どもへの関わり方」を学べると知り、将来の教員・指導者として必要な力を身に付けられると直感。子ども一人ひとりに寄り添う実践的な関わり方を学ぼうと考え、このゼミを選びました。

ゼミで成長したこと

- 運動が苦手な子どもに楽しさを伝える方法
- 苦手なことにも挑戦する姿勢
- 子どもからの喜びの声がもたらす自信

ゼミの雰囲気について

普段は比較的落ち着いた雰囲気のメンバーが多いですが、全員子ども好きのため、子どもの前に立つとスイッチが入って盛り上がります。将来の目標が近い仲間が集まっているため、高め合え、親睦を深める場でも仲良く盛り上がれるメリハリのある環境です。





CASE_2

「体育って楽しい！」を、全員が全力で体現するゼミ



児童スポーツ教育学部
児童スポーツ教育学科
児童スポーツ教育コース
松江 菜穂 さん

ゼミを選んだ理由

誰もが運動を楽しめる体育授業を行える小学校教員を目指し、入学しました。苦手意識のあったハードル走を楽しく学べた鈴木康介先生の授業を通じ、「自分が学びたかった体育はこれだ」と確信。得意な子だけでなく苦手な子にも「体育って楽しい」と感じてもらえる授業づくりを、このゼミで学びたいと思いました。

ゼミで成長したこと

- 子どもへの「具体的な声掛け」の体得
- 運動が苦手な子どもの気持ちに寄り添う視点
- 他者と協力し自らも楽しんで指導する姿勢





ゼミの雰囲気について

専門競技やバックグラウンドが異なるメンバーが集まるため、多様な価値観に触れられます。得意、不得意の立場を経験しながら意見を出し合える環境です。全員に共通するのは「子どもが好き」という想いで、自分自身も全力で楽しむ姿勢を大切に声を掛け合っています。

CASE_3

同学年における誕生月の違いが運動への自信に与える影響に関する研究



大学院 教育学研究科
三橋 碧斗 さん

大学院での研究内容について

同学年における誕生月の違いが運動への自信に与える影響について研究しています。特に4~6月生まれと1~3月生まれの児童に注目し、調査を実施。幼少期に身体面で有利とされる4~6月生まれが、成長とともに差がなくなった際に自信を失ってしまう課題に着目し、同じ悩みを持つ子どもの手助けを目指しています。

特徴的なポイント

- 早生まれと遅生まれで生じる顕著な能力差
- 成長に伴う「運動への自信」の意識変化
- 多角的なデータ収集と個別アプローチ

ゼミ・研究室の雰囲気について

男女問わず仲が良く、学年を超えた交流が盛んです。全員が「運動嫌いな子をなんとかしたい」という共通の想いを持っています。各自の得意分野を教え合って苦手を補い合い、「どんな場所でも楽しむ」をモットーに何事にも全力で取り組める温かい雰囲気です。





CASE_4

「こわい・苦手」を「できた!」に変える学校体育の教材開発に関する研究



大学院 教育学研究科
横山 陽己 さん

大学院での研究内容について

学校体育で子どもが抱く苦手意識や恐怖心を減らし、「やってみたい」と思える授業を実現する教材開発に取り組んでいます。特に器械運動のマット運動領域に注目。動きのイメージをわかりやすく伝える「比喩的表現」と、目標とする運動に類似した動きを取り入れる「運動アナロゴン※」を組みあわせた手法を研究しています。

※運動アナロゴン…スポーツの動きを、日常的な動作を通じて身体感覚を得る手法のこと。

特徴的なポイント

- 直感的に動きを捉えさせる「比喩的表現」
- 段階的な挑戦を可能にする「運動アナロゴン」
- 「イメージしやすく挑戦しやすい」教材の開発





ゼミ・研究室の雰囲気について

教員を目指す子ども好きなメンバーが集まり、授業や教育について活発に学び合える環境です。研究で行き詰まった時は外でボッチャやバレーボールなどをして体を動かしています。研究に真剣に向き合い、息抜きも全力で楽しむメリハリがあります。

鈴木康介ゼミをもっと知りたい人はこちら

Instagramで「NSSU PEAK」をチェック!

ゼミ生募集中!

同僚として子どもに運動の楽しさを届ける仲間を待っています!



魅力満載の鈴木康介ゼミぜひのぞいてみてね!

現場こそ、大学の鼓動。
日体大の「今」を知る。

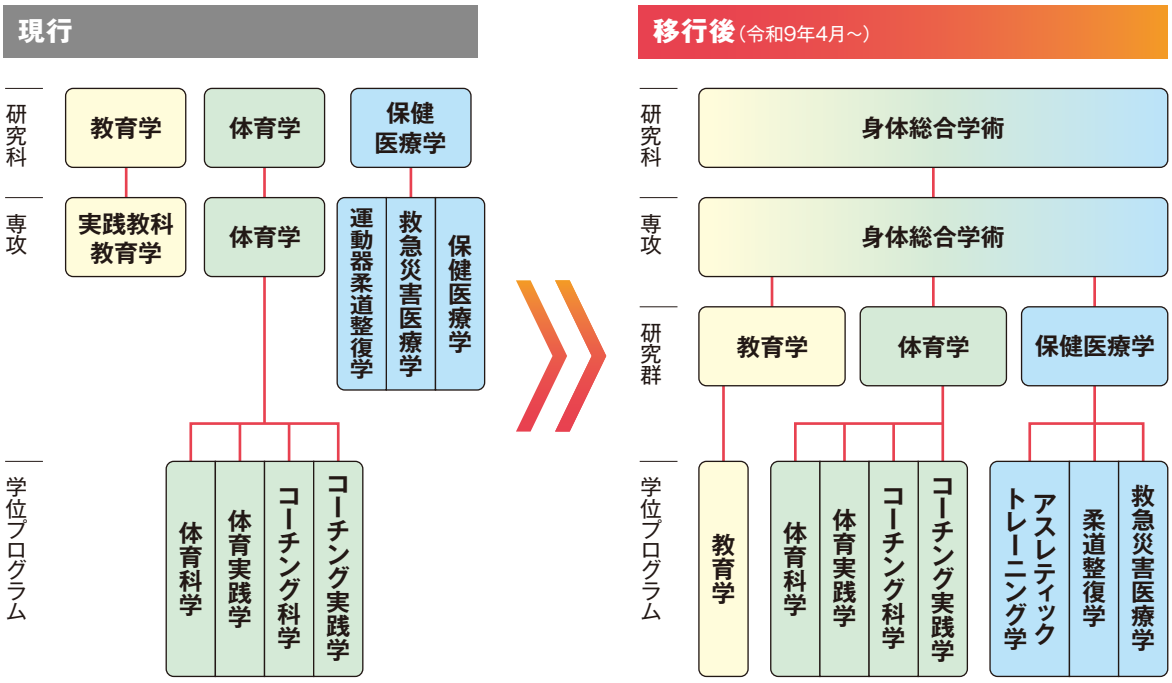
大学の現場から

大学院研究科特集

TOPIC

大学院身体総合学術研究科
改組・新設を徹底解説

日本体育大学大学院は、既設の教育学研究科、体育学研究科、保健医療学研究科の3研究科を改組し、令和9年4月より「身体総合学術研究科」を新たに開設します。今回の改組の背景や再編の意図について、詳しくご紹介します。



※既設の研究科は在籍者がいなくなるまで存続します。

※一部の学位プログラムは博士前期課程のみ。

課程	学位プログラム	取得学位	修業年限	募集人員	キャンパス
博士前期課程	教育学	修士（教育学）	2年	10名	東京・世田谷キャンパス※非対面授業を基本として行います。
	体育科学	修士（体育科学）	2年	31名	コースによってキャンパスが変わります。詳細は学位プログラムのHPを確認してください。
	体育実践学	修士（体育実践学）	2年		
	コーチング科学	修士（コーチング科学）	2年	14名	
	コーチング実践学	修士（コーチング実践学）	2年		
	アスレティックトレーニング学	修士（アスレティックトレーニング学）	2年	4名	横浜・健志台キャンパス※非対面授業を併用して行います。
	柔道整復学	修士（柔道整復学）	2年	2名	
	救急災害医療学	修士（救急災害医療学）	2年	4名	
博士後期課程	教育学	博士（教育学）	3年	3名	東京・世田谷キャンパス※非対面授業を併用して行います。
	体育科学	博士（体育科学）	3年	8名	コースによってキャンパスが変わります。詳細は学位プログラムのHPを確認してください。
	コーチング科学	博士（コーチング科学）	3年	3名	
	柔道整復学	博士（柔道整復学）	3年	2名	横浜・健志台キャンパス※非対面授業を併用して行います。
	救急災害医療学	博士（救急災害医療学）	3年	2名	

■ **東京・世田谷キャンパス** 東京都世田谷区深沢七丁目1番1号　■ **横浜・健志台キャンパス** 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1

1

POINT 1

3研究科が“1研究科1専攻”に

既設の3研究科を1研究科1専攻に改組し、体育スポーツ・教育・保健医療など「身体」にまつわる多様な専門分野を横断的に学べる環境を整備します。これにより、学生は特定分野の専門性を深めつつ、他領域の知見にも触れることが可能になり、自身の研究テーマに応じて、主体的に大学院での学びを設計することができます。すべての本学学生の知的関心に応え、広く世の中の課題にも対応する教育体制を目指します。

POINT 2

幅広い研究分野をカバーする学位プログラムを編成

従来の各研究科・専攻を新たに学位プログラムとして再編し、その教育研究内容も拡充します。体育科学学位プログラムには「スポーツ国際コース（博士前期）」と「スポーツマネジメントコース（博士後期）」を新設。体育学・スポーツ科学のほぼ全領域をカバーするほか、教育学学位プログラムには新たに基礎教育の領域を追加し、教育学の学問的基盤も強化します。これによって、現代的課題に挑戦できる教科教育学の研究が可能になります。

POINT 3

日本初の学位「修士（アスレティックトレーニング学）」を取得可能

アスレティックトレーニング学は、スポーツ現場での支援を“実践”と“研究”の両面から学術的に探究する領域です。1研究科にさまざまな専門分野を結集させることで、本学ならではの新たな学位領域が実現しました。高度な実践力と研究力を備えたアスレティックトレーナーや研究者の養成を目指し、アスレティックトレーニング学学位プログラムを設置します。

わが国初の「身体」を基盤とした学際的研究の拠点へ

新設する「身体総合学術研究科」は、その名のとおり“身体”を基盤とし、自然科学・人文科学・社会科学のあらゆる学術領域を横断して学ぶ研究科です。現代のスポーツや教育・医療の現場では、人権擁護や環境問題、AIの発展などが複雑に絡み合い、従来の専門分野だけでは対処できないような課題が増えてきています。そこで新研究科では、分野横断的に学べる環境を整え、高度な専門性と広い視野を備えた“身体にまつわる知のプロフェッショナル”の育成を目指します。未知なる身体の謎とその可能性について、修士論文や博士論文を通じて探り、体育・スポーツ、教育、保健医療の各分野に研究成果を還元しうる新たな知が生まれる国内拠点となることを期待しています。

大学院
研究科長代表
関根 正美



夏季実習特集

TOPIC

キャンプ実習・海浜実習紹介



CAMPING PROGRAM

キャンプ実習

概要

長野県上田市の菅平高原にて、3泊4日で行われるキャンプ実習。自然あふれる広大な敷地の中で、学生たちはさまざまな体験を通してキャンプの基礎的な知識や技術を身に付け、自主性や協調性、社会性を育みます。

背景

現代では、青少年が自然を体験する機会が不足しており、社会問題の要因の一つになっていると推測されます。自然の中での活動は「生きる力」を伸ばし、高い教育効果をもたらすもの。特に総合的なプログラムであるキャンプは、自然体験活動の基本となる知識や能力の習得に最適です。

挑戦する目標

『自然と人とふれあえる指導者になろう』

活動プログラム（選択制）の紹介

ネイチャーゲーム

多様なアクティビティを通して自然を体験するプログラム。アクティビティは内容によって「熱意をよびおこすカワウソ、感覚を研ぎ澄ますカラス、自然を直接体験するクマ、インスピレーションを分かち合うイルカ」の4つに分類されており、参加者の心理状態の変化に沿って展開されます。



フィールドゲーム

コンパスを使用しながら、制限時間内に地図上に示されたポストをどれだけ多く見つけられるかを競う「ポスト・ラリー」を行います。菅平高原の地形を体感するプログラムです。



自然クラフト

木材や竹など自然の素材を使い、置物や笛、キッチン小物など、オリジナリティあふれる作品の制作に取り組みます。







実習タイムスケジュール

- **6:00** → 起床・朝食。しっかりと栄養を摂って1日の活動に備えます
- **8:30** → 集会場に整列して「朝のつどい」を行います。挨拶や体操など、1日の活動を円滑に進めるためのウォーミング・アップです
- **9:00** → 「活動プログラム」を実施します。学生は、6つのプログラムの中から好きなものを事前に選んで参加します
- **17:00** → 夕食の準備（炊飯活動）。班ごとに分かれ、かまどを使った炊飯や調理を行います
- **19:00** → 夕食後は、キャンプファイヤーを実施。仲間と火を囲み、キャンプを通して得られた経験を共有して親睦を一層深めます
- **22:00** → 消灯・就寝。疲労は時に不注意や判断ミスなどにつながるため、十分な休養を心がけます

実習レポート



大自然の中、開講式から始まったキャンプ実習。班サイトの設営や野外での食事準備、そして夜のキャンプファイヤーなどを通じて、学生たちは活発に声を掛け合い、仲間と共に試行錯誤しながら「協働する力」を習得していきました。それぞれの活動プログラムは、五感を研ぎ澄ませて自然の息吹を感じ取り、自然への理解を深めるきっかけに。普段のキャンパスでは得られない体験は学生たちに自己発見をもたらし、仲間との絆を築き上げる、かけがえのない4日間となりました。

2

日体大の教育課程には「野外実習」が組み込まれており、学生は個々の興味関心に合わせて好きなプログラムを選択することができます。学報日體大83号では、冬季実習（スキー・スケート）の様子をご紹介しました。今回は2026年7月に行われた2つの夏季実習についてレポートをお届けします。

BEACH PROGRAM

海浜実習

概要

千葉県南房総市の岩井海岸で3泊4日を過ごす海浜実習。学生は泳ぎのレベルに合わせてA級～D級に分けられ、それぞれの級で入退水や泳法の練習、遠泳、救助法の実習などを行います。心身を逞しく鍛えると同時に、自然への理解や協調性を育む機会になります。

歴史

日本の大学の中でも、海で遠泳を行う大学は少数です。日体大は1951年から水泳実習（後の海浜実習）を取り入れ、学生の水辺における安全管理能力や、指導者としての実践力を育成してきました。予測困難な自然環境の中で己の限界に挑み、仲間と団結するこの伝統実習は本学の教育の根幹を長年支え続けています。

PICK UP



大遠泳

日体大の伝統であり、A・B級の学生全員が挑む名物プログラムです。集団で隊形を組み、主に「顔上げ平泳ぎ」の泳法を用いて、約2時間を泳ぎ切ります。単に長距離を泳ぐことにとどまらず、仲間と声を掛け合い、全員が一体となって完泳を目指すことが最大のポイントです。

実習タイムスケジュール

- **9:00** → 全体点呼で1日が始まります。全員で準備体操を念入りに行い、海でのけがや事故を防止します
- **9:30** → 平泳ぎや横泳ぎ、立ち泳ぎ、浮き身など、さまざまな泳法や救助法を学びます
- **12:00** → 昼食をとります。しっかりと栄養を補給して、午後の実習に備えます
- **14:30** → 遠泳練習を行います。縦と横の列を揃え、遠泳隊形を保ちながら方向転換する練習などをします
- **19:30** → 夕食後は学習講義が行われます。遠泳に適した泳法について、座学で知識を深めます







実習レポート



晴れ渡った空の下、2026年度は900名を超える学生が海浜実習に参加しました。集団生活を営みながら、連日海で体を動かす4日間は特別なひととき。特に、仲間と一丸となって厳しい大遠泳や遠泳を終えた後の達成感はひとしおでした。今回の実習を通して、学生たちは自然の厳しさと温かさを肌で知り、仲間との深い絆を実感。自然環境への理解ややり抜く力を成長させることができました。

Info. 1

スピードスケート史上初の偉業

髙木美帆氏 国民栄誉賞受賞



2026年8月4日、髙木美帆氏（体育学部卒）に国民栄誉賞が授与された。五輪4大会で日本女子最多となる通算10個のメダルを獲得し、ワールドカップでも日本最多の通算38勝を記録。長きにわたりスピードスケート界の第一人者として世界の第一線で活躍し、国民に夢と感動、社会に希望と勇気を与えた功績がたたえられた。





これまでの軌跡

北海道で生まれ育った幼少期

1994年、北海道幕別町に生まれる。兄と姉の影響で5歳からスケートを始め、小学生の頃から頭角を現した。さまざまな競技（スポーツ）にも打ち込み、サッカーでは中学時代には北海道選抜で活躍。多彩な運動経験の中で、世界へ羽ばたく土台を築いていった。

15歳でバンクーバー五輪に初出場



2009年12月の代表選考会で女子1,500mを制し、4種目で代表入り。翌2010年、15歳でバンクーバー五輪に初出場し、日本スピードスケート史上最年少の五輪代表となった。「スーパー中学生」として全国から大きな注目を集めた。

1994 — 2010 — 2013

5歳でスピードスケートを開始

日本体育大学入学



2013年、日本体育大学体育学部に入学。入学式では約1,600人の新入生を代表して宣誓した。同年末にソチ五輪代表を逃す悔しさを経験するも、2015年の世界距離別選手権チームパシュートで日本初の金メダルを獲得するなど、大きく飛躍した。

RESULTS



オリンピックの通算メダル数　計10個

金メダル 2個

- 平昌2018 女子団体パシュート
- 北京2022　1,000m

銀メダル 4個

- 平昌2018　1,500m
- 北京2022 女子団体パシュート
- 北京2022　1,500m
- 北京2022　500m

銅メダル 4個

- 平昌2018　1,000m
- ミラノ・コルティナ2026 女子団体パシュート
- ミラノ・コルティナ2026　1,000m
- ミラノ・コルティナ2026　500m

2017 - 2018	世界オールラウンドスピードスケート選手権大会	総合優勝
2019 - 2020	世界スプリントスピードスケート選手権大会	総合優勝

WORLD RECORD



1,500m		
TIME	DATE	PLACE
1:49.83	2019.3.10	ソルトレイク シティ
Team Pursuit		
TIME	DATE	PLACE
2:50.76	2020.2.15	ソルトレイク シティ

2018

平昌五輪出場



ソチ五輪代表落選を乗り越え、2018年平昌五輪で2大会ぶりに五輪の舞台へ。女子1,500mで銀、1,000mで銅、チームパシュートで金メダルを獲得した。初の五輪メダルを含む3個を手にし、世界屈指のオールラウンダーとして存在感を示した。

2022

北京五輪出場



2022年北京五輪では5種目に挑み、女子1,000mで自身初の個人種目金メダルを獲得。500m、1,500m、チームパシュートでも銀メダルに輝き、1大会で計4個のメダルを手にした。日本のスピードスケート界をけん引する第一人者として歴史を刻んだ。

2026

ミラノ・コルティナ五輪



2026年、4度目の五輪となるミラノ・コルティナ大会に出場。女子500m、1,000m、チームパシュートで銅メダル、1,500mで6位入賞を果たした。五輪通算メダル数は10個となり、夏冬を通じて日本女子最多という金字塔を打ち立てた。

現役最終戦となる世界選手権で総合3位



ミラノ・コルティナ五輪後、競技生活に一区切りをつける意向を表明。2026年3月、現役最後の大会として世界選手権に臨み、女子オールラウンド部門で総合3位に輝いた。26年にわたり世界の第一線を走り続けた競技人生を、表彰台で締めくくった。

写真提供：共同通信社

Info. 2

アジア最大のスポーツの祭典

第20回アジア競技大会結果報告

令和8年9月から10月にかけて、第20回アジア競技大会、続いてアジアパラ競技大会が愛知・名古屋を舞台に開催された。日本での開催は32年ぶりとなる。日体大からも多くの関係者が出場し、レスリング金メダル獲得をはじめ、輝かしい成績を収めた。大きな舞台で示したその姿は、積み重ねてきた努力の価値と、スポーツの持つ力を改めて伝えるものとなった。

大会レポート **熱戦の舞台で示した日体大の力　アジアの頂点を目指して**

日体大関係者がアジアの舞台で躍動した。トライアスロン男子では北條巧（既卒）が大会初日のレースで金メダルを獲得。レスリング男子グレコローマン87kg級でも、吉田泰造(体育学科)が金メダルに輝いた。卒業生と在学生がともにアジアの舞台に軌跡を残し、日体大が誇る高い競技力を示した。

メダル獲得数（日体大関係者） | **第20回アジア競技大会**



第20回アジア競技大会 日本体育大学関係者一覧

競技	氏名	出場種目・ポジション・役職等	成績
陸上競技	柄澤 智哉	棒高跳	9位
	福部 真子	100mハードル	1位
	齋藤 みう	3,000m障害物	5位
水泳／飛込	坂井 丞	3m飛板飛込	3位
	伊熊 扇李	3m飛板飛込, 3m飛板飛込シンクロナイズド	3m飛板飛込シンクロナイズド：2位、3m飛板飛込：5位
	三上 紗也可	3m飛板飛込	3位
水泳／水球（男子）	荒木 健太	CF	1位
	足立 聖弥	D	1位
	髙田 充	CB	1位
	伊達 清武	D	1位
	西村 永遠	GK	1位
	鈴木 透生	CB	1位
	佐々野 廉	GK	1位
	渡邉 太陽	D	1位
	荻原 大地	D	1位
	浦 緑至	D	1位
	森谷 雄輝	D	1位
	ローリー 隼	CF	1位
	塩田 義法	監督	―
	志賀 光明	コーチ	―
水泳／水球（女子）	設樂 ひかる	CF	2位
	河口 華子	D	2位
	西山 風花	D	2位
	福田 星香	D	2位
サッカー（女子）	瀬野 有希	DF	1位
	近賀 ゆかり	コーチ	―
ソフトテニス	黒坂 卓矢	シングルス, 国別対抗戦	国別対抗戦：1位、男子シングルス：2位
	天間 麗奈	シングルス, 混合ダブルス, 国別対抗戦	女子シングルス：1位、国別対抗戦：1位、混合ダブルス：2位
	篠原 秀典	監督	―
ローイング	北野上 隼人	軽量級ダブルスカル	5位
	遠山 秀雄	クォドルプルスカル	4位
バレーボール（男子）	河東 祐大	セッター	2位
バレーボール（女子）	塩出 仁美	セッター	2位
3×3バスケットボール（男子）	野田 悠峨	シューティングガード	8位
レスリング	鈴木 絢大	グレコローマン60kg級	3位
	曽我部 京太郎	グレコローマン67kg級	2位
	日下 尚	グレコローマン77kg級	2位
	吉田 泰造	グレコローマン87kg級	1位
	仲里 優力	グレコローマン97kg級	1位
	奈良 勇太	グレコローマン130kg級	8位
	小川 大和	フリースタイル57kg級	5位
	清岡 幸大郎	フリースタイル65kg級	3位
	藤波 朱理	フリースタイル57kg級	3位
	松本 慎吾	コーチ	―

競技	氏名	出場種目・ポジション・役職等	成績
レスリング	松本 隆太郎	コーチ	ー
	湯元 健一	コーチ	ー
	柳川 美磨	コーチ	ー
	藤波 俊一	コーチ	ー
ハンドボール(男子)	藤坂 尚輝	CB	3位
ハンドボール(女子)	岸井 紅葉	トレーナー	ー
自転車／マウンテンバイク	川口 うらら	クロスカントリー	4位
自転車／BMX	中井 飛馬	レーシング レース	1位
	木内 彪凱	レーシング レース	2位
	畠山 紗英	レーシング レース	1位
フェンシング	坪 颯登	サーブル 団体	2位
	東 晟良	フルーレ 団体	1位
	菅原 智恵子	コーチ	ー
柔道	石原 樹	73kg級, 混合 団体戦	混合 団体戦：1位、73kg級：3位
	藤原 崇太郎	81kg級	1位
バドミントン	霜上 雄一	団体, 混合 ダブルス	混合ダブルス：2回戦敗退
射撃／クレー射撃	宮坂 七海	トラップ個人, トラップ団体, 混合トラップ団体	トラップ団体:5位、混合トラップ団体:8位、トラップ個人:18位
ラグビーフットボール(男子)	中野 剛通	FW	3位
ラグビーフットボール(女子)	大内田 夏月	FW	1位
	平野 優芽	BK	1位
	永田 花菜	BK	1位
	吉野 舞祐	BK	1位
	堤 ほの花	BK	1位
カヌー／スプリント	井上 暉央	カヤックフォア500m, 混合カヤックペア500m	カヤックフォア500m：3位、混合カヤックペア500m：3位
アーチェリー	青島 鉄也	リカーブ個人, リカーブ団体	リカーブ団体：5位、リカーブ個人：16位
武術太極拳	齋藤 志保	太極拳・太極剣 総合	太極拳・太極剣：2位
トライアスロン	安松 青葉	個人, 混合リレー	個人：8位
	北條 巧	個人, 混合リレー	個人：1位、混合リレー：2位
ゴルフ	中島 啓太	個人, 団体	団体：3位、個人：11位
セパタクロー	内藤 利貴	Regu, Quadrant, Team Regu	Quadrant：1位、Team Regu：3位、Regu：1次リーグ敗退
	髙田 脩真	Team Regu	Team Regu：3位
	水戸 一希	Regu, Team Regu	Team Regu：3位、Regu：1次リーグ敗退
	小林 裕和	Team Regu	Team Regu：3位
	奈良輪 航	Quadrant, Team Regu	Quadrant：1位、Team Regu：3位
	笹本 将貴	Regu, Team Regu	Team Regu：3位、Regu：1次リーグ敗退
	槇尾 渚	Quadrant, Team Regu, Double	Quadrant：3位、Team Regu：4位、Double：予選敗退
	戸上 佳代	Quadrant, Team Regu, Double	Quadrant：3位、Team Regu：4位、Double：予選敗退
	恩田 みなみ	Quadrant, Team Regu	Quadrant：3位、Team Regu：4位
	鳥海 千夏	Quadrant, Team Regu, Double	Quadrant：3位、Team Regu：4位、Double：予選敗退
	塩野 日向	Team Regu	Team Regu：4位
	高留 パトリシア菜音	Quadrant, Team Regu	Quadrant：3位、Team Regu：4位
	伊澤 千夏	Quadrant, Team Regu	Quadrant：3位、Team Regu：4位
	林 咲輝	Team Regu	Team Regu：4位
	原田 琹	Team Regu	Team Regu：4位
	田口 碧波	Team Regu	Team Regu：4位
クリケット(女子)	小田 恵里花	RHB	準々決勝敗退
	小川 メグ	RAMP	準々決勝敗退
コンバットスポーツ／クラッシュ	大吉 賢	81kg級	3位
体操／体操競技(男子)	新宅 裕也	コーチ	ー
体操／体操競技(女子)	村上 茉愛	監督	ー
体操／新体操	村田 由香里	監督	ー
本部	水鳥 寿思	副団長	ー
	杉田 正明	本部員	ー

出典：日本オリンピック委員会　第20回アジア競技大会　選手名簿（10月4日時点）

第20回アジアパラ競技大会 日本体育大学関係者一覧

競技	氏名	出場種目・ポジション・役職等
バドミントン	金井 航	男子SU5
	今井 大湧	男子SU5
	梶原 大暉	男子シングルス(車いすWH2)
陸上競技	新保 大和	円盤投げ
	田巻 佑真	100メートル走, 200メートル走, 走り幅跳び
	兎澤 朋美	100メートル走, 走り幅跳び
	福永 凌太	100メートル走, 400メートル走, 走り幅跳び
水泳	久保 大樹	200m個人メドレー, 100mバタフライ, 400m自由形
	窪田 幸太	100m背泳ぎ, 50m自由形
	富田 宇宙	400m自由形, 100m自由形, 200m個人メドレー
卓球	友野 有理	シングルス　クラス8
車いすバスケットボール	赤石 竜我	ー
	髙松 義伸	ー
アーチェリー	真境名 元司	情報スタッフ
バドミントン	草井 篤	監督
水泳	杉沼 春美	コーチ
ー	秋葉 将秀	広報

出典：日本パラリンピック委員会　第20回アジアパラ競技大会　選手名簿（9月28日時点）

體NT News & Topics

スポーツの世界で活躍する在学生・卒業生の姿から、研究活動の最新ニュース、イベント情報まで――日体大で巻き起こる躍動の日々をリアルタイムでお届けする「News & Topics」。在学生・卒業生・教職員たちの挑戦はもちろん、地域や社会とのつながりを広げる活動など、多彩なニュースをご紹介します。本学に関わる人々の熱意と成果を、タイムリーにお伝えするこのコーナーを通して、日本体育大学の“いま”を感じてください。

第20回アジア競技大会 熱戦の記録












写真提供：共同通信社





第20回アジア競技大会の閉会式WARM-UP STAGEに本学の「集団行動」が演技を披露し、会場を盛り上げました！

體

Nippon Sport Science University

日本体育大学
公式アプリ



日体大の最新情報をGETしよう!

- ☐ プッシュ通知でお知らせ
- ☐ 限定フォトフレーム
- ☐ 食堂メニュー
- ☐ n-pass ログイン

日体大アプリで検索

App Store からダウンロード

Google Play で手に入れよう

学報 日體大 85号 発行日●2026年10月30日 発行●日本体育大学広報課 TEL 03-5706-0948 FAX 03-5706-0922 https://www.nittai.ac.jp/ 制作協力●(株)WAVE